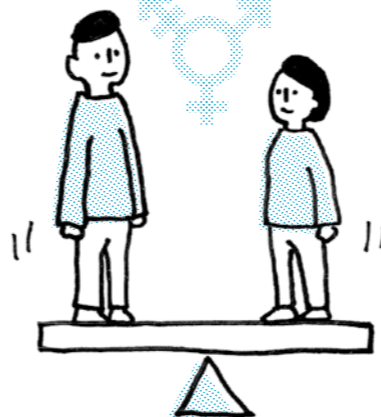


すべての人が活躍できる社会へ

**女性社長率は全国1位
沖縄女性、頑張っています！**

各国の男女格差の度合いを指数化して順位をつける「世界ジェンダーギャップ指数」。2020年の日本の順位は153カ国中121位で、女性活躍推進が叫ばれる中、まだまだ格差が大きいようです。

そんな中、沖縄では女性社長が活躍しているというデータを発表。帝国データバンクが発表した調査結果によると、2019年における県内社長の



女性社長比率 全国比較

1	沖縄	11.3 (%)
2	徳島	11.0
3	青森	10.9
4	佐賀	10.4
5	奈良	10.1
全国水準		8.0

帝国データバンク
全国「女性社長」分析調査(2020年)

うち、女性の割合は11.3%と高く、全国1位という驚きの結果に。沖縄で女性社長が多い背景には、女性の雇用者数の増加などが考えられます。昔から女性が働き者だという沖縄。それが現代も続いているようです。人口減少、労働力不足が指摘される中、経済活性化の切り札として、女性のさらなる活躍がますます期待されます。

沖縄はジェンダー平等が実現できている？

沖縄のために活動している外国人がいるってホント？

文化を発信したり、未来のために研究するなど各分野で活躍中！

観光地として人気のある沖縄県。最近では移住する外国人も多く、沖縄県人口の100人に1人は外国人なんだそう。そんな外国人の中には、沖縄の文化を世界へ発信したり、沖縄で学んだことを母国や未来に生かすなど、各分野で活躍している人がたくさんいます。

中国出身の鄒さんは琉球の歴史に興味を持ち、中国皇帝の使者・冊封使をもてなした御冠船料を再現。またイタリア出身のラバシさんは、沖縄の海でサンゴや熱帯魚の研究を行い、今後の気候変動の影響について調べています。

沖縄に魅了され、沖縄で頑張っている外国人たち。彼らは身も心も立派なウチナーンチュのようですよ！

鄒 揚華さん
冊封副使・徐葆光の研究者



中国出身。京都大学大学院工学研究科博士後期課程単位取得。2004年沖縄移住。ドキュメンタリー映画「徐葆光が見た琉球〜冊封と琉球〜」の総合監修を務めた。

ティモシー・ラバシさん
沖縄県立技術大学院大学 海洋科学者



イタリア出身。アメリカやサウジアラビアの大学を経て、世界的にサンゴの種類が豊富な沖縄に移り、気候変動がサンゴ礁や熱帯魚などに及ぼす影響を研究している。

マルコ・マッセターニさん
イタリアンカルチャー倶楽部 代表・イタリア領事連絡員

イタリア出身。沖縄の気候風土に魅せられ移住。沖縄とイタリアの架け橋となるため、留学やビジネスのサポートの他、イタリアの文化や歴史などを伝える活動をしている。



クレメンティンバー・アンドレアさん
沖縄県空手振興課

スロバキア出身。幼少の頃から空手を始め、16歳の時にナショナルチームの選手として初めて来沖。空手4段、古武道2段。沖縄移住後は語学力を活かし空手振興に務めている。



私にもできる



意識を変える

まずは、一人ひとりがSDGsの目標に関心を持ち、考えることが大切。身近な人の悩みや関心事に耳を傾け、自分のすぐ近くにある社会課題に気付くことも、SDGsへの第一歩といえるでしょう。日常の何気ない体験や気づきが、関心の芽生えになることもあるようです。2030年のゴールを目指し、子どもや次世代に住みやすい世界を残すために、17の具体的な目標を意識して、関心を持った目標に対し自分に何ができるか考えていきたいですね。

持続可能な世界への第一歩
SDGs CLUB
日本ユニセフ協会
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>



JICA沖縄で
国際交流

「浦添にある国際センター」として親しまれているJICA沖縄。開発途上国の政府関係者を受け入れて、沖縄県内で各種分野の研修を行っています。最近では、民間企業の海外展開を後押しするため、県や関連団体とともに企業との連携を深めています。施設内には一般の人が利用できる食堂や図書館のほか、SDGsに関する体験型の展示も行っています。海外についてもっと知りたいと思ったら、JICA沖縄を訪れてみてはいかがでしょうか。

JICA沖縄ウェブサイト
<https://www.jica.go.jp/okinawa>



養蜂に取り組む南城市の「楽ワーク福祉作業所」。メンバーが失敗を恐れず前向きに働ける環境がある。

「収入のため」「自己実現のため」「社会に役立つため」など、働く理由はさまざまです。それは、障がいのある人もない人も変わりません。

障がい者の就労は、近年急速に増えています。障がい者雇用促進法では、民間企業は2.2%の雇用義務があり、沖縄県の障がい者雇用率は2.74%で奈良県について全国2位(令和2年「障害者雇用状況集計結果」と、全国平均2.15%を上回り、過

去最高値を更新しました。障がいのある人もない人も協力して働けるよう、企業では働きやすい職場づくりを進めることが大切です。身構えず自然に接する、相談しやすい雰囲気をつくる、良い面は評価し、きちんと言葉で伝えるなど、ちょっとした声かけや気遣いだけでも働きやすさがアップするといえます。誰もが気持ちよく働ければ、企業はもっと成長するはず。障がい者の活躍の場をもっと増やしませんか。

**全国2位
さらなる活躍を応援しよう！**

**ハンディキャップを
持った人たちの
就職率って？**



性別や人種、障がいの有無に関わらず、誰もが活躍できる社会を目指して。私たち県民一人ひとりが、できそうなことを、はじめてみませんか。



年齢の差、人種や性別の違い、障がいの有無に関係なく、互いを尊重し合い、その場にいる全員が気持ちよく働ける環境を表現しています。